

< 中学校道徳部会 >

研究主題

「生きがいの追求力」を高める指導の充実
— 自己実現への意欲、望ましい勤労観をはぐくむために —

研究の概要

戦後60年目の節目の年に当たり、本年度は、戦後の価値観や社会状況の変遷を改めて振り返り、未来に向けての教育の方向性を発信する契機となる年と考える。

子どもたちの学力や心の問題は国家挙げての課題性をもったテーマであり、社会的な問題としては『ニートNEET』と呼ばれる若者等の増加など、自己の生きる目的を見失ったり勤労に対する関心や意欲をもち得ない青少年の課題がある。

そこで、道徳の時間において、自己実現への意欲や望ましい勤労観を主題として取り上げ、道徳的価値の自覚をより深める資料や発問の検討等、生徒の価値観をはぐくむ指導法を開発し、生徒の「生きがいの追求力」を高める教育の充実に資する。

I 研究の目的

道徳の時間における内容項目1-(5)〔自己の向上・個性伸長〕及び4-(5)〔勤労の尊さ・奉仕の精神〕を取り上げ、指導過程や発問、あるいは資料提示の工夫など通して、生徒の「生きがいの追求力」を高める上での、効果的な指導法の開発を行う。

II 研究の方法

- 1 道徳の時間で「生きがいの追求力」をはぐくむことの意義と、全教育活動における位置付けを明確にし構造図として示した。
- 2 自己実現への意欲や望ましい勤労観をはぐくむ道徳の時間を展開するために、生徒の多様な考えを引き出す指導法を工夫した。
- 3 生徒の実態や生徒の生き方への関心にこたえる発問、生徒の興味を喚起する導入等、本研究主題に迫る道徳授業の開発をすすめ、「生きがいの追求力」を高める主題を構想した。

III 研究の内容

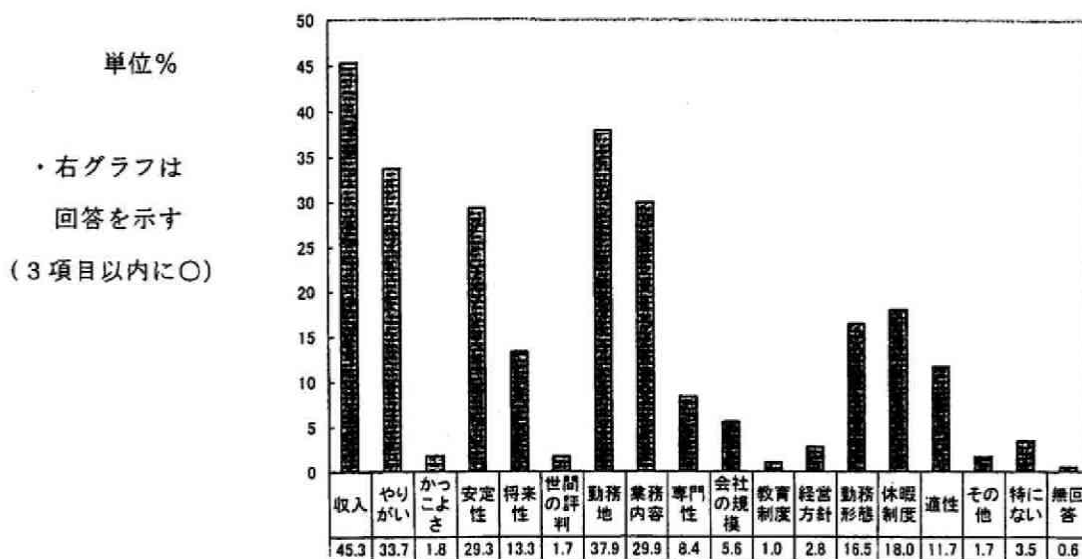
1 研究の基本的考え方

(1) 社会的背景と生徒の実態

『ニートNEET』とは、若年無業者問題に悩む英国で使われる「Not in Education, Employment or Training」の頭文字をつなげた略称で、通学も仕事も職業訓練もしていない若者たちをさす。厚生労働省が2005年の7月に発表した「05年版労働経済白書」によると、2004年のニートに相当する若年無業者は、64万人と3年連続の高水準である。また、内閣府の全国20歳以上35歳未満の男女1849人を対象にした「03年若年層の意識実態調査」によると、仕事に就くにあたり重視している項目として「収入」「勤務地」「やりがい」「業務内容」「安定性」の順に割合が高く、さらに同調査によると、パート、アルバイト等のフリーターと呼ばれる若者は「将来に不安がある」「仕事が面白くなければ辞めればよい」と考えている。

内閣府「03年若年層の意識実態調査」より（全国20歳以上35歳未満の男女1849人を対象）

問い「あなたは仕事に就くにあたりどのようなことを重視していますか、または重視しましたか。」



一方、中学生の現状を考えてみると、職業観が多様であることとともに、漠然とした希望はあるものの、現実的な問題としてとらえられていなかったり、希望を実現させていくための通過点にある努力や忍耐を自己の問題としてとらえることができていないと判断できる。

また、夢や希望をどうやってつかんでいくのか、その方法を見出せず、必死に悩んで葛藤している生徒の姿も浮かんでくる。そのように悩み葛藤している生徒たちは、教師や大人に、生き方についての指導を求めていると考えられる。

(2) 「生きがいの追求力」について（構造図参照）

本部会では、生徒一人一人が、「自分自身を見つめ、将来何をやりたいか、その為に現在どう努力すべきかを考え、勤労の尊さや意義を理解し、望ましい職業観を身に付け、自己の向上を図り、充実した生き方ができるような力」を「生きがいの追求力」と定義した。

「生きがいの追求力」は、学校の全教育活動を通じてはぐくまなければならない。実際、職業に対する知識理解や職業観の醸成、選択能力の育成は、各教科、特別活動、総合的な学習の時間を含むすべての教育活動において行われている。また、生徒自身の能力、個性の伸長は、すべての教育活動が統合されることによって可能になるものである。

そして、特に道徳の時間は、人生観の醸成、生き方を追求する姿勢といった自己実現への意識付けや意欲啓発に心情面、情意面で資するものである。

2 内容項目についての考え方

「生きがいの追求力」についての指導は、すべての内容項目にかかわるが、本部会では、とりわけ関係の深いものとして、〔内容項目1－(5)〕と〔内容項目4－(5)〕に視点をあて研究をすすめた。

(1) 〔内容項目1－(5)〕の指導

「中学校学習指導要領 解説―道徳編―」（以下「解説」と略記）によれば、内容項目1－(5)は、「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方

を追求する。」である。

人間はだれでも、その人間固有のよさがある。学校生活の中で、例えば、学業成績がよかったり、運動が得意だったり、また、委員や係を積極的に引き受けリーダーシップを発揮できたり、あるいは、学校行事で自分の得意な分野で活躍できたりする生徒たちは、他の生徒からも認められ、自らも自信をもって学校生活を送ることができるだろう。一方、学級や委員会、部活動ではあまり目立たないかもしれないが、何事にも協力的で、諸活動の場面でまじめに取り組み、その集団にとって欠かせない大切な存在となっている生徒もいる。生徒たちに、自分自身のよさや個性に気付かせ、生活の多くの場面で自己実現の可能性のあることを自覚させ、自己の目標のために意欲的に努力する力、生きがいをもって自分を高めていく能力を育てたいと考える。

(2) [内容項目4-(5)]の指導

解説によれば、内容項目4-(5)は、「勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。」である。

勤労は、人間生活を成立させる基本的な要件であり、一人一人が勤労の尊さやその意義を理解し、勤労を通じて社会生活の発展・向上に貢献することが求められている。勤労には、自らの夢や目的を実現し幸福を追求するという側面と、収入によって生活を維持し、勤労によって社会を支えているという側面がある。中学生は、自分の目的を実現するためや、気の合った仲間と一緒にする仕事には意欲的に取り組むが、共同で行う仕事や集団での仕事などについてはこれを疎んじる傾向もある。自分の進路や職業について関心が高くなってくるこの時期に、勤労の尊さや意義、働くことへの理解を通して職業観をはぐくみ、公共の福祉に努めようとする態度を培い、生徒一人一人に、将来に向けて勤労を通して生きがいのある人生を切り拓いていこうとする意欲を高めたいと考える。

(3) 「道徳の時間」の発問や指導過程等の工夫に関する基本的な考え方

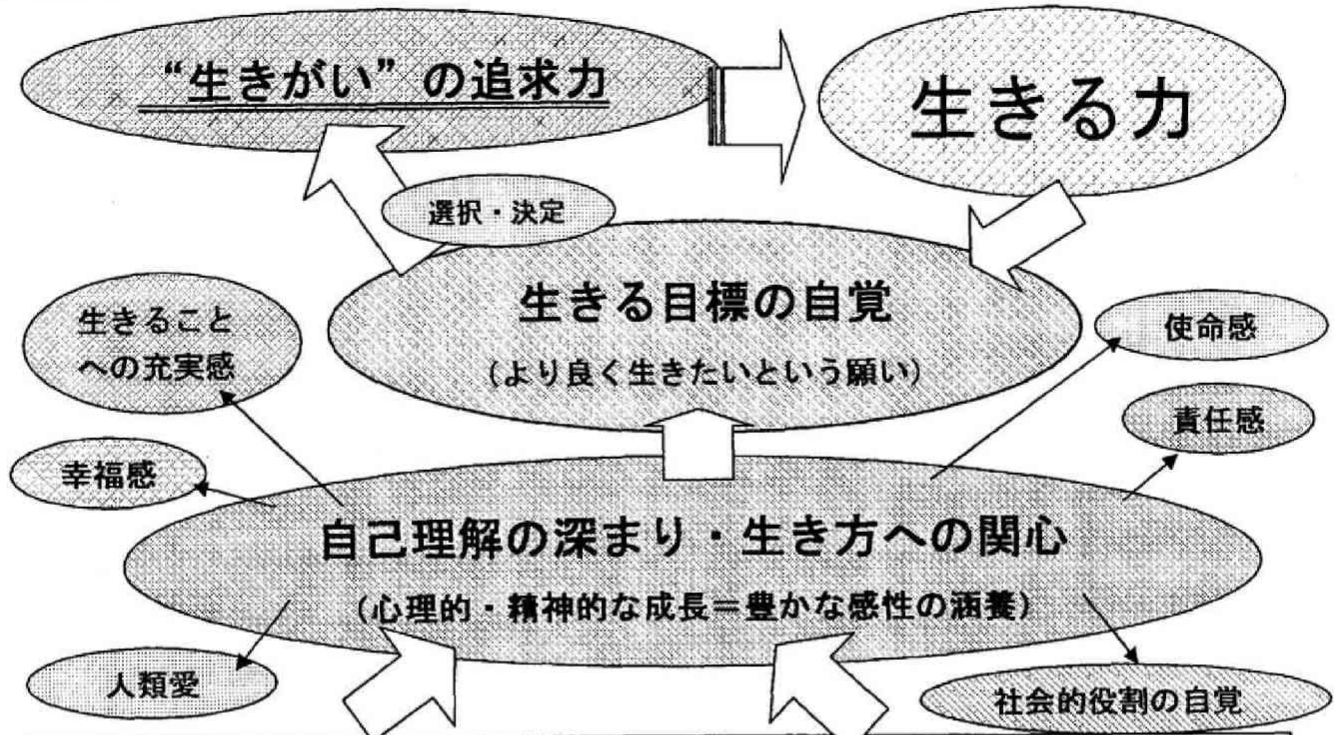
本部会では、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間を展開するために、以下のような基本的な考え方で、主題を構想し、発問や指導過程等を工夫した。

- ① 学習指導要領に示されている内容に基づきねらいを明確にするとともに、生徒の実態、資料、教材の特性を生かし授業を工夫する。
- ② 生徒の生き方の関心にこたえる発問を工夫する。
「自分はよりよく生きたいと願いながら、どうすればよいか分からない、不安で自信がもてない」など生徒の悩みや願いにこたえる発問を工夫することにより、生徒の気持ちを引きつける授業を展開する。(※「友だちがほしい」という生徒の願いに対しては、友だちができるための方法を示すことも生徒の生き方の関心にこたえることになる。)
- ③ 価値観の育成に資する発問をする。行動化を促す発問をしない。
- ④ 例えば、[内容項目4-(1) 集団の一員としての役割] や [内容項目4-(9) 愛国心] など、現在の生徒の願いから距離があると思われる主題を扱う場合は、生徒の心情に訴えたり、将来の見通しを示したりするなどの工夫が考えられる。
- ⑤ 道徳の時間に関する評価については、学習指導要領に示されているとおり、数値などによる評価は行わず、生徒の道徳性の実態を把握した上で指導に生かすようにする。

「生きがいの追求力」のとらえ方【本部会における考え方を示す構造図】

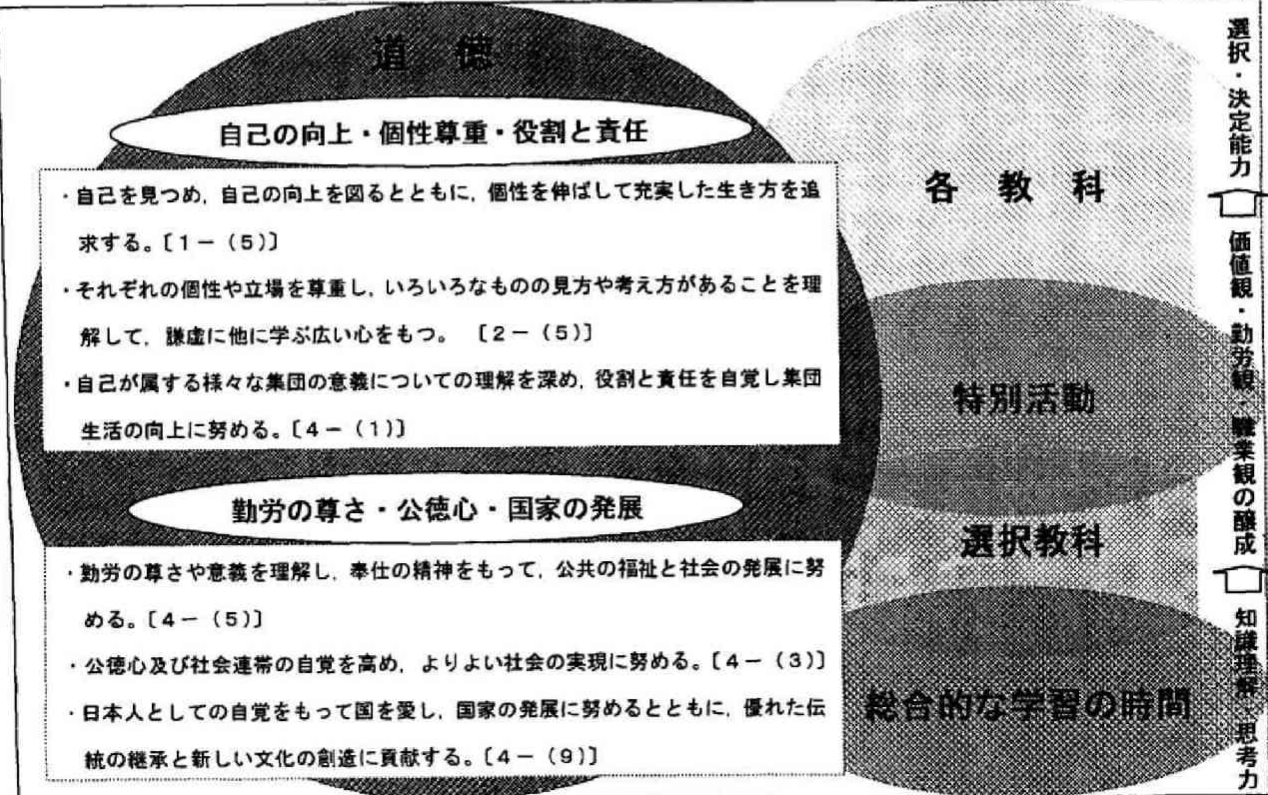
「生きがいの追求力」とは…

「自分自身を見つめ、将来何をやりたいか、その為に現在どう努力すべきかを考え、勤労の尊さや意義を理解し、望ましい職業観を身に付け、自己の向上を図り、充実した生き方ができるような力」



道徳的価値・生き方についての自覚を深める
【自己実現の啓発】

理解を深め、見方や考え方を養う



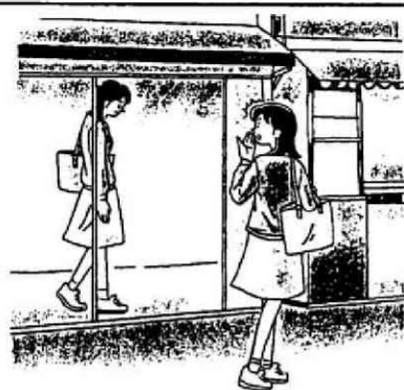
※内容項目は主なものを例示してあります。

IV 指導事例

指導事例1〔内容項目1-(5)〕〈第1学年〉

- 1 主題名 充実した生き方の追求
- 2 ねらい 自分にとっての充実した生き方・生きがいを求め、個性を生かして自分を伸ばしていくことに希望を見出させる。
- 3 資料名 「ゴール裏の青春」(「中学校明るい学級づくり5年」明治図書より)
- 4 資料の概要 文部科学省「心のノート」(中学校)P35

本資料は、父親の目を通して見た息子の生き方が描かれており、途中に息子の作文が挿入されている。今までサッカーに関心がなかった父親が、息子にポジションを聞くと、「球拾いさ。」という言葉が返ってきた。がっかりした父親は「勉強に切りかえたらどうだ。」と言ってしまう。後日父親は、息子の書いた作文を読み、息子の思いや生き方を知ったのだった。作文の中の、息子の気持ちの変容を考えることにより、生徒一人一人が自己の生き方を振り返る契機となる資料である。



何か大きな力はないだろうか。
夢と希望、そして勇気が湧いてくるような——
もう一度、硝子窓に映った自分を見る、
そして「心の姿勢」について考える。

5 指導過程 (授業の概要)

	学習活動	生徒の反応 (回答)	指導上の留意点
導入	1 現在の自分について考える。 ・「心のノート」P34, P35の「心の姿勢」を読み、「日ごろの自分は、硝子窓にどのように映っているのか。」を考えてみる。 【右上「心のノート」P35の絵参照】	・改めて考えてみると、目標もなく過ごしているような気がする。 ・普段、自分の心がどう映っているかなんて考えたことはない。	・教師の問いかけのみとし、生徒が自分の心を見つめるよう助言する。(生徒は特に意見の発表はしない。)
展開	2 資料を読んで以下のことについて考える。 (ワークシートに自分の考えをまとめる。) 発問(1)「おれ、球拾いさ。」と言った息子の気持ちがわかるか。それはどんな気持ちだろう。 発問(2)「関係ねえよ。」と言った息子の気持ちがわかるか。それはどんな気持ちだろう。 発問(3)息子の作文の後半部分を考えてみよう。また、「十二番はおれの中学時代の勲章なの	※ 資料は、息子の作文の後半部分を消去したものを示す。 ・わかる。親に期待されているのに恥ずかしかった。 ・悔しさを押し殺していた。 ・どうせレギュラーじゃないという投げやりな気持ち。 ・自分に腹がたった。 ・悔しがっている自分を見せたくなかった。 ・悲しく情けない気持ち。 ・ほおっておいてほしい。 ・自分しかない番号である。 ・何も恥じることはない。	・書くことが苦手な生徒に対しても、登場人物の心の動きについて考えてみるよう指示する。 ※ 生徒の実態に即した発問であるが、ある程度時間をとり、生徒の思考が次の発問につながるようにする。

	<p>だ。」という作文の最後の行の勲章とは、何かということを書いて書いてみよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※ 資料において、「深めたい道徳的価値にかかわり、生徒が自分と登場人物を重ね合わせて考えることができる部分」を空欄にして示し、その部分を想像させることにより、生徒の思考を促す工夫をした。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・レギュラーになれなくても大好きなサッカーでみんなを支えよう。 ・自分にとって無駄なことではなかった。 ・レギュラーではないが、十二番はがんばってきた証しだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※ 生徒の多様な意見が出た後に、資料の中で消去してあった部分の、主人公の作文を生徒に示すことも考えられる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の「空欄」の後の部分を読み、息子の心の動きを板書しまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※ 生徒自身の感じ方の多様さがあらわれ部分なので、十分に時間をとる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※ 子どもの成長が大人にとってはうれしいと生徒が気付くように留意する。</p> </div>
<p>終末</p>	<p>3 ワークシートに自分の考えをまとめる。</p> <p>発問(4) 息子の作文を読んで、父親が涙を流したこと(意味)を考えながら、自分が気付いたことや、これからの自分のことなどをまとめてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この話の中学生は自分と重なる部分が多かった。周り比べて落ち込むこともあるけど、この中学生のように自分で勲章と言えることを見付けて学校生活を送りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返って、充実した生き方や、生きがいについての考えを深めさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※「生きがいの追求力」につながる発問である。</p> </div>

6 評価

- ・生徒が常に自分と登場人物とを重ね合わせて考え、感じていたか。
- ・生徒一人一人が、個々のよさに気づき、自己理解を深めたか。
- ・自分のよさ、個性を生かした生き方・生きがいを見付ける方法を見出せたか。

7 考察

(1) 資料の提示

導入において「心のノート」を用いた。当初、p32・p33の「あなたらしさがあなたの個性」に該当する部分の活用を検討していたが、本資料の導入としては、p34・p35の「心の姿勢」を用い、鏡に映った自信なさげな自分の姿に気付く、という記述をもとに、生徒が「現在の自分はどうか映っているか」を考え、「心を見つめる」きっかけとした。

また、資料において、深めたい道徳的価値にかかわり、生徒が自分と登場人物を重ね合わせて考えることができる部分」を空欄にして示し、その部分を想像させることにより、生徒の思考を促す工夫をした。

(2) 発問についての工夫

前述5の指導過程では、展開で発問(1)～(3)、終末で発問(4)となっているが、当初は、展開の部分に発問(4)「息子の作文を読んで涙を流したときの父親の気持ちを考えてみよう。」を入れていた。しかし、実際に授業を展開し検証した結果、発問(1)及び発問(2)のように、主人公の心情の深まりにそった発問を工夫し、生徒たちが考えるのに十分に時間をかけることにより、発問(3)において、生徒たちの道徳的価値の自覚が深まったと思われるワークシートの記述が見られた。よって、発問(4)を展開に入れると、それまで、十分な時間がかけられないこと、また、逆に、発問(1)、(2)、(3)と十分な時間をかけることによってすでにねらいとする価値が深まっていることから、発問

(4) は、5の指導過程で示したとおり、終末に入れ、発問の仕方も、「息子の作文を読んで、父親が涙を流したこと（意味）を考えながら、自分が気付いたことや、これからの自分のことなどをまとめてみよう。」に変更した。

(3) ワークシートについて

中学生という発達段階、あるいは、発言が苦手な生徒が多いなどの学級の現状を考えた場合、ワークシートの活用は、生徒一人一人の意見を引き出すという点できわめて効果的である。また、指名を受けワークシートをもとに発表する生徒の意見を教師が復唱し、学級全体に浸透させるなど、生徒全員の意見を尊重する雰囲気をつくれた。

さらに本部会では、生徒の実態に応じワークシートの様式を複数考案した。「～の気持ち分かるか。」という問いに対して、「よく分かる。」・「なんとなく分かる。」・「あまり分からない。」・「まったく分からない。」という選択肢を示し選択させた上で、「どんな気持ちだろう。」という次の問いに対し文章で書かせるというように、生徒が思考しやすいように工夫したのも一つの例である。

(4) 「生きがいの追求力」へ ―生徒の反応から―

(2) で述べたように、当初の指導過程案では「息子の作文を読んで、涙を流した父の気持ちを考えてみよう。」という発問だったが、その発問に対しての生徒たちのワークシートの記述の一部を参考として以下に示す。

- ・レギュラーではないのにチームに尽くそうとする息子の気持ちがうれしかった。
- ・三年間がんばり苦しんでいた息子にひどいことを言ってしまった自分が許せなかった。
- ・サッカーを通じて息子は輝いている。そのことに感動した。

これらの記述からも、他人との比較においてではなく、自己受容し、自分なりの在り方や生き方を見付け、前向きに取り組み、充実感を得ている息子に涙する父親の姿を、生徒一人一人が受けとめ、そのことが生徒にとって「生きがいの追求力」の基盤となると考えられる。

指導事例2〔内容項目4－(5)〕〈第2学年〉

1 主題名 勤労の尊さ

2 ねらい 勤労の尊さ・働くことの意味、それを通して得られる「生きがい」について考え、目的意識をもちよりよく生きようとする積極的な態度を養う。

3 資料名 「あめ細工」(「かけがえのないきみだから2年」学習研究社より)

4 資料の概要

本資料は、現在はまれになったあめ細工職人の石割定治さんにインタビューした記事をまとめたものである。家計のために父の見よう見まねで始め、最初は恥ずかしかったあめ細工という仕事だが、次第におもしろさを覚え、自分のあめ細工を見た人たちが喜ぶ姿に生きがいを感じるようになる。また、生徒たちに、夢や希望の実現ということだけではなく生活の糧を得るという仕事の一面に着目させ、石割さんの考え方・仕事に対する思いにふれ、働くことの意味や、生きがいの見付け方を考えるのにふさわしい資料である。

5 指導過程（授業の概要）

授業の事前実施したアンケート（対象 第2学年 31名）					
問い 【仕事に就くとき重視しようと思う条件を3つあげてみよう。】					
以下回答（自由記述方式 生徒の記述をもとに主な傾向をまとめたもの）					
内容	人数	内容		内容	人数
収入	26	休み（多い・一定）	19	勤務時間が一定	10
家から近い	9	安定した仕事	6	楽しい・面白い	6
待遇	4	自分に合う	4	職場環境	3
やりがい	2	人の役にたつ	2	仕事内容	1

	学習活動	生徒の反応	指導上の留意点
導入	<p>1 事前アンケート(仕事を選ぶとき大切にしたい条件3つ)の結果を知る。</p> <p>2 あめ細工という仕事ついて理解する。</p> <p>問い ○ あめ細工を見たことがあるか。</p>	<p>※クラスの人間の多様な考え方を知る。</p> <p>・お祭りで見たことがある。 ・身体的にきつそう。 ・特別な技術が必要である。</p>	<p>○アンケートの調査結果(一覧表を提示)を紹介する。</p> <p>○あめ細工の実物を示す。</p> <p>○あめ細工という仕事について簡単な説明をする。(補助資料配布)また、生徒にこの職業についての感想や思いをたずねる。</p>
展開	<p>3 資料「あめ細工」を読み、話し合う。 (生徒はワークシートに記入する。)</p> <p>発問(1)最初は、恥ずかしくてこっそり作っていたあめ細工を、石割さんが「楽しい」と言えるようになったのはなぜだろうか。</p> <p>発問(2)石割さんは、あめ細工には「金に執着しない人」が向いているというが、「紳士」が石割さんの姿を見て「ええ仕事やってるなあ」とうらやましそうに言ったのはなぜだろうか。</p> <p>発問(3)「生きがい」とはどのようにして見付けるものだろうか。</p> <p>※生徒の願いや生き方への関心にこたえる発問である。</p>	<p>・上手くできるようになったから。 ・慣れたから。 ・人に褒められたから。</p> <p>・生活のためだけに働いていない姿が紳士にはうらやましかったから。 ・石割さんが楽しそうに仕事をしているから。</p> <p>※自己実現の方法が多様なことに気付く。</p> <p>・夢をもつこと。 ・きっかけはいつでも真剣に努力すること。 ・人に認められること。 ・一つのことを根気よく続けること。 ・自分自身ががうれしく思えること。</p>	<p>○努力により仕事に対する自信がついてきたこと、及び、社会的に認められてきたことを押さえる。</p> <p>○石割さんの仕事に対する誇りや充実感を理解させながら、収入や社会的名声を得ることだけが自己実現ではないことを理解できるよう促す。</p> <p>○石割さんの話をもとに「生きがい」はどうやって見付けるのかを、生徒自身が自分のことに照らし合わせて考えられるよう促す。</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>※「働くこと」と「生きがい」とに、深いかわりがあることに気付く。</p>	<p>○ねらいとする道徳的価値にかかわり、教師自らの体験を率直に語る。</p>

6 評価

- ・生徒が常に自分と登場人物とを重ね合わせて考え、感じていたか。
- ・生徒一人一人に、目的意識をもちよりよく生きようとする積極的な態度が身に付いたか。
- ・勤労の尊さや働くことの意味について考えることができたか。

7 考察

(1) 資料の提示

あめ細工は、最近の中学生にはなじみが薄いと思われるので、生徒の興味・関心を高めるための工夫として、あめ細工に関する解説資料や、実物のあめ細工を用意し、生徒に示した。

(2) 生徒が主体的に学習するための発問の工夫

生徒の生き方への関心にこたえる質問として、発問(3)の「『生きがい』とはどのようにして見付けるものだろうか。」を設定したが、発問(3)に対して、生徒一人一人が自ら考えられるようにするために、発問(1)及び発問(2)を設定した。

また、設定した発問以外にも、実際の授業において生徒の発言や反応に対応し、補助発問も挿入した。以下に例を示す。

補助発問例①：「アンケートの結果の一つに(安定した仕事)とあるが、あめ細工の仕事について、この点についてはどうだろう。」→生徒の反応：「天候に左右される。」「人出に左右されるなど不安定だ。」

補助発問例②：「石割さんはなぜあめ細工という仕事に就いたのだろうか。」(アンケートの結果とリンクさせる。)→生徒の反応：「収入のためである。」

補助発問例③：「石割さんのほかにこの話に出てくる男性“紳士”のプロフィールを想像してみよう。」→生徒の反応：「オフィスで事務の仕事をしている。」

補助発問例④：「収入の安定した仕事に就いていると予想できる男性が、なぜ石割さんのことをうらやましく思うのだろうか。」

(3) 終末の工夫

教師の説話を通し、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めた。

私は教師をしています。はじめからこの仕事に就こうと思っていたわけではなく、大学で専門に学んだことが生かせる職業の一つが教師だったからです。しかし、いざ教師になるとよいことばかりではありませんでした。辞めた同僚もいましたが、なぜか私は辞めようと思ったことは一度もありませんでした。先日デパートの売り場でじっと私を見つめる店員さんがいました。いぶかしく思っていると、「先生ですよ？」と声をかけられました。何年前前の教え子でした。彼女はどちらかというともじめな生徒ではなく、教師として注意ばかりしていた記憶がよみがえりました。しかし、なぜか温かい気持ちになりました。こんな感動が味わえるからこそ、私は教師を続けているのです。

(4) 資料活用の観点

本資料は勤労の尊さ4-(5)だけでなく個性の伸長1-(5)としての指導も可能である。この場合進路学習との関連性を考慮に入れ、導入等で職業調べの感想文を紹介する方法も考えられる。また、石割さんのいう「一生の仕事」とは何か、ということを中心発問に据えると第1学年にも理解しやすいと思われる。

(5) 「生きがいの追求力」を高める授業

本指導過程の展開における発問(3)「『生きがい』とはどのようにして見付けるものだろうか。」は、まさに生きがいの追求の仕方を聞いているものである。資料の登場人物の心情を追いながら、道徳的価値の自覚を深めている生徒たちは、自らの問題として「生きがい」を考えることができる。

V 研究の成果と課題

1 成果

(1) 「生きがいの追求力」の考え方を示し、その必要性を確認することができた。

将来に対して漠然とした希望はあるものの、実現させていくための通過点にある努力や忍耐を自己の問題としてとらえることができなかつたり、目的を達成するための方法が見出せず葛藤している生徒たちは、生き方についての指導を求めている。

そのような生徒たちに対して、「生きがいの追求力」＝「自分自身を見つめ、将来何をやりたいか、その為に現在どう努力すべきかを考え、勤労の尊さや意義を理解し、望ましい職業観を身に付け、自己の向上を図り、充実した生き方ができるような力」を高めるような道徳の時間を展開し、生徒の思いにこたえることが肝要である。

(2) 「生きがいの追求力」と関連した2つの内容項目に視点を当て授業例を示した。

本部会では、〔内容項目1－(5)〕「自己の向上・個性伸長」と〔内容項目4－(5)〕「勤労の尊さ・奉仕の精神」の2つの主題に視点を当て、研究開発を実施した。つまり前者では、「自分にとっての充実した生き方や『生きがい』を求め、個性を生かして自分を伸ばしていくことに希望を見いださせる」こと、後者では「勤労の尊さや働くことの意味、それを通して得られる『生きがい』について考え、目的意識をもちよりよく生きようとする積極的な態度を養う」という道徳の時間のねらいを明確にしたうえで、『ゴール裏の青春』及び『あめ細工』という、生徒の多様な価値観が引き出され、生徒が自分と照らし深く考えることができる資料を選定し授業法を検証した。

(3) 生徒の生き方の関心にこたえる主題を構想をし、生徒の道徳的価値の自覚を深めた。

生徒の悩みや不安を教師が把握し、生徒が本来もっている思い、(満足できる自分の生き方を見出したい。)(もっと愛される人になりたい。)(誇りのもてる人になりたい。)(など、心の奥底にある願いや、生き方への関心にこたえることができるような資料選択や発問の工夫を行った。具体的には、資料の中で、生徒が疑問に思っている、関心をもっている内容に着目し、登場人物の心情を考える発問や、自分の問題に引き戻す発問など、生徒が自らの思いや考えを見つめることができるような発問を工夫した。その際、行動の変容をしいるような発問にならないよう留意した。また、ワークシートを活用し、発言が苦手な生徒の意見も含め、生徒が考えを深められるよう工夫した。

また、生徒の道徳性の評価については、一回の授業ごとに評価するのではなく、長いスパンの中で生徒一人一人の変容を見ていく必要があること、さらに授業者はその授業のねらいを達成するための指導の工夫(資料、発問、補助発問、板書など)について評価、改善していく必要があることを再確認した。

こうした取組の結果、検証授業においては、ワークシートの記述、生徒の発言から、生徒の生きがいの追求力が高まったことが判断できた。

2 まとめと課題

- 生徒一人一人が、将来各自の「生きがい」をもち自己実現に向けて豊かに生きてほしいというのはすべての教員の願いである。「生きがいの追求力」をはぐくむことの意義と、道徳の時間の位置付けを確認し、教科、領域との関連を視野に入れて取り組む必要がある。
- 教師が、道徳の時間の特質を理解したうえで、授業のねらいを焦点化し、しかも、指導過程がパターン化したり形が固定化したりしないようにするためには、日ごろから主題を意識して資料の収集にあたる他、生徒の行動の奥にある「願い」や「関心」を把握し、それにこたえる授業を構成できるよう継続的な検討や協議が必要である。